

2 各学年

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
1 学 年	学年目標、自主・自立（自律）、共生・協働、不撓・不屈のもと、上記のような人間になるように、指導していく。それぞれ、自らの行動を決定し、自立（自律）出来る人間、他者と関わりながら、物事を構築・創造できる人間、困難な事に対してもあきらめず、粘り強く取り組む人間を育てる。	自分を飾らず誠実な高校生を育てる。自分の意思をしっかり持ち、やるべきことをやり抜く強い意志を育てる。	元気な挨拶を行うなどを通して、活気のある学校生活を送らせる。 きまりと時間を守ることの意義をふまえさせ、規律正しい高校生活を送らせる。	A A
		日々の授業を大切に、学習内容をすぐに復習をさせる習慣を早期に確立させる。それにより学力の向上と充実を図る。	授業の大切さを指導し、出席率99%以上をめざす。	B
			自宅学習平日4時間以上の習慣を定着させる。	A
			定期考査及び学習到達度確認問題（小テスト）等の結果を踏まえた授業改善を図り、生徒が満足する授業を行う。	A
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図る。	A
			進研模試において、 ①平均偏差値70以上の生徒が20名以上になることをめざす。 ②偏差値58以上の生徒が70以上をめざす。	B
		将来の進路をしっかりと意識させ、計画を立て実行する能力を育てる。	SGHの内容であるKJ-C T（クエストエデュケーション）・魚沼学やキャリアスコープ等を有効活用し、自己を見つめ、自己を確立する教育やキャリア教育を年間を通じて計画的に実施する。	A
生徒理解を深めるとともに、保護者との連携を図る。	個別面談を実施する。 保護者との連携のため、2回の三者面談を実施する。 新入生保護者歓迎会・地区PTA・学年PTA・各種懇親会に参加する。	A		
2 学 年	①自己のあり方、生き方を決定できる主体的な人間を育てる。 ②課題解決のために協働し、多様な他者と共生する人間を育てる。 ③自ら学び続け、その知識・情報を活用できる人間を育てる。	授業や学校・学年行事を通じてコミュニケーション能力を身につけるとともに、他者と協力しながら工夫を重ね、世界や地域の課題を解決できる人間を育てる。	元気な挨拶を行うなどを通して、活気のある学校生活を送らせる。	A
			きまりと時間を守ることの意義をふまえさせ、規律正しい高校生活を送らせる。	A
		授業第一主義により、生徒の学力を向上を図る。	授業の大切さを指導し、出席率99%以上をめざす。	B
			自宅学習平日4時間以上の習慣を徹底させる。	A
			定期考査及び学習到達度確認問題（小テスト）等の結果を踏まえた授業改善を図り、生徒が満足する授業を行う。	A
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図るとともに、発展的な内容についても理解させる。	B
		自己の高校卒業後の進路を意識させ、意義ある高校生活を送る動機付けとする。	進路研究(学問研究・大学研究等)を含む進路学習を年間にわたって系統的に行う。	A
生徒理解を深めるとともに、情報共有を通して保護者との連携を図る。	個別面談を年5回、三者面談を適切なねらいのもとで実施する。		A	

	重点目標	具体的目標	具体的方策	
3 学 年	①自分が何のために学ぶのかを自分で考えることができる力を養う。 ②学習習慣を早期に確立し、三年間最後まで頑張りぬく力を養う。 ③ともに目標達成を目指す仲間から信頼される誠意ある人間を育てる。	学力を向上させ、難関大を含む国公立大学等への進路希望を達成させる。	生徒のやる気を喚起し、学力向上に資する授業を実践する。	A
			授業重視の態度を育て、出席率99 %以上、年間皆勤者30名以上を目指す。	A
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図るとともに、発展的な内容についても理解させる。	C
			登校学習会、休日講習会、模擬試験、自習会などを実施し、基礎力・応用力を養成する。	A
			大学進学率90%以上を達成する。	B
		生徒理解を深めるとともに、学年全体で情報を共有し、保護者との連携を図る。	個別面談、三者面談を適切なねらいのもとで実施する。	A
		生徒理解を深め、生徒の進路選択の手助けをする。	個別面談及び進路に関する検討会を、明確なねらいのもとで実施し、生徒の進路選択の手助けをする。	A

